

『童子字尽安見』『理義字集』について

—「世話字尽」「節用集」との比較を中心に—

山口 翔 平

1. はじめに

現在「理義字」は、「同じ形（2つないし3つ）の組み合わせで構成される漢字」と説明され、漢字の形状を表す言葉として用いられている。しかし、これは Wikipedia 編集者の誤解によって定義され、その後定着した可能性が高い（2 節）。

「理義字」は『童子字尽安見』（正徳6年（1716）刊、以下『安見』）に「理義字集」という章の144項目¹⁾が収められているものが最も古いと思われる。この144項目は「なかくぼ凹・はしだて𪛗・はらむ孕」など同じ漢字の組み合わせによらない漢字も収められており（稿末「付表」参照）、「同じ形（2つないし3つ）の組み合わせで構成される漢字」という意味で用いられてはいないようである。

「理義字」という言葉は現在、『安見』の意味していたところとは異なった意味で用いられているようであるが、その「理義字集」の性質は未だ知られていない。そこで、本稿は「理義字集」の性質を明らかにすることを目的とし、特に同時代に流通していた世話字尽や節用集などと比較を行った。

2. 現在の理義字

まず、「理義字」の現在の意味と、その意味に至った経緯について述べたい。

Wikipedia 日本語版「理義字」では2008年12月24日版から2018年10月28日版まで、若干の異同はあるものの、おおよそ以下の意味で解説されている。

- (1) 理義字（りぎじ）は、同じ漢字を2つ、ないし、3つ組み合わせで構成される漢字のこと。（Wikipedia「理義字」2018年10月28日版²⁾）

この意味は小説でも取り上げられるなど、現在広く流布している。

- (2) 理沙はメモ帳を取り出した。そこには《理義字》《品字様》という言葉が書かれていた。

「同じ字をふたつか三つ組み合わせたものを『理義字』というそうです。中でも、三つ重ねたものは『品字様』と呼ぶらしいですね」

(麻見和史 2018 『緋色のシグナル 警視庁文書捜査官エピソード・ゼロ』³⁾)

他にもテレビ番組で取り上げられたこと⁴⁾があり、「同じ形（2つないし3つ、または2つ以上とするものもある）の組み合わせで構成される漢字」という意味で説明されている。

さらに、2019年5月1日版からは以下のような、「3つ組み合わせて構成される漢字」の意味を「品字様」に担わせるような説明となり、「理義字」の意味が「同じ漢字を2つ組み合わせて構成される漢字」となる。

- (3) 理義字(りぎじ)は、同じ漢字を2つ組み合わせて構成される漢字のこと。また、広く、形態が奇妙な漢字や、面白い形をした漢字のことを指す。3つ組み合わせて構成される漢字は、品字様（ひんじよう）と呼ばれる。

(Wikipedia「理義字」2019年5月1日版⁵⁾)

その後、2022年10月2日に「また、広く、形態が奇妙な漢字や、面白い形をした漢字のことを指す」という部分も削除され⁶⁾、「同じ漢字を2つ組み合わせて構成される漢字のこと」という説明になっている⁷⁾。この意味で「理義字」を説明する記述も以下のように見られる。

- (4) 同じ漢字を三つ組合わせ一字を成す品字様、二つの場合は理義字。

(『短歌往来』2021年9月号⁸⁾)

しかし、実際の『安見』にある「理義字集」は「晶」などの品字様から始まり、「姁」など同じ漢字を二つ組み合わせるものを経て「凹・𪛗・孕」などの奇字までも収めるものである⁹⁾。

2.1 経緯

当初、Wikipediaには「同じ漢字を三つ集めて構成されている漢字」というペー

ジがあり、その存続についての議論の中で「理義字」への移動が提案される。この典拠として「東京学芸大学リポジトリ」¹⁰⁾の『年中往来用文章』の「理義字集」(『安見』「理義字集」とはほぼ同じ文字集合が鼈頭に挿入されているもの)が示される¹¹⁾。しかしこの「理義字集」は後部が落丁しており、同じ漢字を3つ組み合わせるものと、2つ組み合わせるもの(93項目)しか見られない。この「理義字集」を見てWikipediaの「理義字」という項目が作成され、「同じ漢字を2つ、ないし、3つ組み合わせる構成される漢字」として定義された¹²⁾。

Wikipediaに記述される以前から、小泉吉永氏によるウェブサイト「往来物倶楽部」の「往来物解題(抄)」(『往来物解題辞典』の抄録、最終更新は2007年)の『童子字尽安見』の項に「理義字集(同字三字あるいは二字で作った俗字)」とあり、『年中往来用文章』の項にも「理義字集(字形の似通った漢字などを集める)」と記述されている。Wikipediaの編集者がこの記述を発見し、その後、落丁した「東京学芸大学リポジトリ」の『年中往来用文章』に行きついたと思われる。

『安見』や『年中往来用文章』から離れ、一般的に「理義字」を用いることは、Wikipedia以前には管見の限り見られない¹³⁾。Wikipediaの記事によって「理義字」が「同じ形(2つないし3つ)の組み合わせで構成される漢字」として解釈されるようになったと思われるが、その定義の典拠となった「理義字集」の実態に即したのではない。品字様から始まることを考えると、特に(3)の「同じ漢字を2つ組み合わせる構成される漢字」という説明は極めて不適切である。

2.2 同形反復による漢字の名称

これまで「同じ形の組み合わせで構成される漢字」を指す言葉は『新撰字鏡』(天治本)に見られる「品字様」しか知られておらず、「品字様」以外の同形反復による漢字を言い表すことができなかった。

同形反復による漢字を類聚することは『新撰字鏡』以外にも明代の「海篇類」の一種『海篇心鏡』などでも行われている¹⁴⁾。現在も同形反復による漢字を集めたウェブサイトが散見され、古今を問わず人々の関心があったようである。そのような人々の関心がある一方で、名称は「品字様」しかなく、「品字様」で表現できない部分を埋める形で「理義字」が注目され、広まったのだと考えられる。

なお、本稿では『海篇心鏡』に見られる名称を踏襲し、上下反復による「炎」のようなものを「重疊類」、左右反復による「双」のようなものを「並肩類」と呼ぶこととする¹⁵⁾。

3. 「理義字集」と『童子字尽安見』

3.1 「理義字集」について

「理義字集」は管見の限り『安見』(1716)、『年中往来用文章』(天明7年(1787)刊)と『門引節用万宝蔵』(寛政元年(1789)刊)、『早引文字通』(弘化4年(1847)刊)にしか見られないようである。『年中往来用文章』の「理義字集」は龍頭に挿入されているもので、順序の異同や訓の異同はあるが基本的に『安見』と同じ144項目が収められている。関場(1990)によると、『門引節用万宝蔵』『早引文字通』は『安見』の改題・改編本であり、「理義字集」についてはほぼ同じようである¹⁶⁾。

つまり、上記4つの資料における「理義字」は、『安見』による144項目を引き継いだものであり、一般的な理解として「理義字」という集合があったわけではないと考えられる。そこで、本稿では『安見』の「理義字集」を元に調査を進めた。

3.2 『童子字尽安見』について

「理義字集」を収める『安見』は往来物の一つで、関場(1990)は「他の語彙集型往来に比し、項目数の多いのは確かである(p.11)」と述べ、『往来物解題辞典』でも「往来物としては語彙数が最も多い教材の一つ(小泉吉永執筆項)」と述べられている。関場氏も『往来物解題辞典』も割注に注目すべきものがあることを指摘している。内容は64種の部門を立て、部門ごとに語彙を集録するものである。「理義字集」は64番目の部門で、最後に配されている。

作者は松井兎睡(松井庄左衛門)である。兎睡がどういった人物かは明らかではないが、『誹諧絵文匣』(享保7年(1722)刊)の編者も同一人物のようで、刊記の「(武江／武陽)田所町 松井庄左衛門」が一致する。『誹諧絵文匣』では「立詠」と号しており、加藤(2011)によると、いくつかの俳書にも入集しているようである。

3.3 「理義字集」の配列

「理義字集」は、漢字の形状で分類すると、品字様51字、並肩類46字、重畳類10字、雑字37項目からなる。形状の順序は品字様→並肩類→重畳類→雑字となっており、その形状の分類の中でも「冒昌」のように、さらに類似した形状が並ぶ部分がある。

特に品字様の部分は漢字の構成要素の意味によって分類されている。「理義字集」の中でも品字様が最も整理された配列にになっており、節用集などの分類を用いて

区分すると、表1のように分けることができる。天地（乾坤）から始まるのは、多くの節用集が取る形である。並肩類も同様に分類したが、品字様の部分ほどはっきりとした分類にはなっていない。品字様よりも分類の難しい形状が多いということもあるだろうが、「𠂔」「𠂔」が離れたところに配置されていたり、気形門に分類されるものの後に「𠂔」一字が取り残されていたりと、整った配列であるとはいえない。

表1 品字様と並肩類の順序と分類

	「理義字集」の品字様・並肩類の順序	分類
品 字 様	晶晶𠂔𠂔森森𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	天地
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	身体
	𠂔𠂔𠂔	人倫
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	気形
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	その他
並 肩 類	𠂔𠂔𠂔𠂔	人倫
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	身体？
	𠂔𠂔	色
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	天地
	𠂔𠂔𠂔	草木
	𠂔𠂔𠂔𠂔	形状の類似
	𠂔𠂔𠂔𠂔	数量
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔	その他
	𠂔𠂔	身体
	𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔 ¹⁷⁾ 𠂔𠂔 (うを)	気形
	𠂔	その他

品字様を集めることは、先に述べたように『新撰字鏡』をはじめとして、『小野篁歌字尽』¹⁸⁾でも行われている。後掲の(9)で示すが、『邇言便蒙抄』には品字様・並肩類などを集める部分があり、そこも品字様から始まっている。「理義字集」も品字様の字数が最も多く、その配列も整理されていることから、着想としてはまず品字様があったものと思われる。そこから、徐々に派生的部分を類聚したのではないだろうか。

「理義字集」冒頭、天地門に分類されるものの部首の順序に着目すると、「日月雨(雲)風」から始まり、「木火土水」と続く配列になっている。『漢字百科大事典』の「一六 部首の分類」と照らすと、『新撰字鏡』（天治本）が「天日月肉雨気風」、『字鏡集』（天文本）が「天雨日月雲風」、『玉篇略』・『和玉篇』（夢梅本）が「日月肉人言木火土金水」となっており、類似する部分が見られる。ただ、このような配列は容易に

案出できるものなので指摘するに留めておく。

4. 「世話字尽」「節用集」などとの比較

山田（1955）や関場（1990）では『安見』の「理義字集」に触れる部分で以下のように記述しており、世話字との関連が示唆されている。

- (5) 理義字集（会意字中、同母を ^(ママ)二、三 あはせる林多出^{はやしおおしいづるふたごもりかしましあきらか}孖森姦晶のごときものから同類の世話字をあつむ）（山田 1955：367）
- (6) 「理義字集」は〈中略〉往来物や節用集類の付録に時々世話字集風なものが入っているのを見かけるが、それと同じ様な面を持っており、「童子の目を悦しめ」るものになっている。（関場 1990：13）

「世話字」は江戸期に行われた俗語の漢字表記である。『漢字百科大辞典』では以下のように記述されており、俳諧書に「世話字」が収集されていることが知られている。

- (7) 種々の当て字などを総称した江戸時代の用語。世話とは俗語（口頭語）のこととて、初期には「世話の字」とも呼ばれていたことから、主として、俗語に当てた漢字表記をよぶ用語であったようである。〈中略〉談林俳諧の行われた延宝（一六七三―一六八一）前後には、俳諧書の一部として世話字が類聚され、作句の便に供されたものと思われる。

（『漢字百科大辞典』「世話字」佐藤貴裕執筆項）

『安見』の作者、松井兎睡が俳人であったことを踏まえると、「理義字集」と俳諧書の一部として世話字を収集した「世話字尽」が関係していると考えられた。

また、その「世話字尽」がどのような集合であったかという点、山田（1973）は次のように述べており、節用集から抜粋したものであるとされている。

- (8) 世話字 は、節用集から 脱化したもので、一言で いへば、その なかから ある 種の このみに かなふ ものを 抜萃した ものである。

（山田 1973）

木村（1982）は、『延命字学集』の「世話字集」の特に前半部（イロハ類聚）と節用集との対照を行っており、『節用集大全』と共通する語が84.1%を占めるという結果が出ている。このように、世話字尽と節用集は関係が深いものである。

そこで、諸本に収められた世話字尽、節用集などと、「理義字集」との対照を行った。調査の結果、一致しないものも多かったため、追加で慶長15年（1610）版『倭玉篇』との対照も行い、「理義字集」の文字・訓の性質を明らかにしようとした。

4.1 調査概要

稿末「付表」に示した「項目（144項目）」の漢字と「訓（149項目）」（左訓や漢字音を含む）を元に調査を行った。

調査に用いた資料は表2の通りで、『安見』以前に刊行されたもの、特に索引のあるものを用いた。『延命字学集』『童子字尽』以外の使用した資料は、稿末の「参考資料」に挙げた。

表2 調査資料

分類	書名	刊行年	略号	備考
	童子字尽安見	1716（正徳6）	安見	『往来物大系』『節用集大系』と早大本も確認した ¹⁹⁾ 。
世話字尽関係	懷子	1660（万治3）	懷子	卷十一による。
	続無名抄	1680（延宝8）	—	一致なし。
	増補大和言葉	1681（延宝9）	増大	
	邇言便蒙抄	1682（天和2）	邇言	
	常陸帯	1691（元禄4）	常陸	
	世話用文章	1692（元禄5）	世話	
	書札調法記	1695（元禄8）	—	一致数が少ないため割愛 ²⁰⁾ 。
	反故集	1696（元禄9）	反故	
	延命字学集	1699（元禄12）	延命	木村（1982）の翻刻による。
	童子字尽	1714（正徳4）頃	童子	萩原（2017）の翻刻による。刊行年未詳。『安見』とは異なるものである。
参考	小野篁歌字尽	1673（寛文13）	小野篁	
辞典類	易林本節用集	1597（慶長2）	易林	「並同」などと併記された漢字も含めている。
	増補下学集	1669（寛文9）	増補下学	
	合類節用集	1680（延宝8）	合類	
	節用集大全	1680（延宝8）	大全	
漢和	倭玉篇	1610（慶長15）	倭玉	「同上」とされたものも含めている。

世話字尽に関係する『懷子』『続無名抄』『増補大和言葉』『邇言便蒙抄』『常陸帯』『反故集』については、索引を確認し、『世話用文章』は後半の字尽くしの部分以外

にも理義字と共通するものが見られたので、索引に加えて前半部も確認した。『書札調法記』は「世話難字」、『延命字学集』については字尽くしの部分、『童子字尽』は翻刻のすべてを確認した。『邇言便蒙抄』の索引は字尽くし部分以外の語も収めており、それも調査範囲としている。これらに収められた語彙は少ないため、索引は全て確認し、理義字と同じ字で訓の異なるものも収集した²¹⁾。『小野篁歌字尽』にも一致するものが見られることから、調査資料に含めている。(以下、これらの資料を「世話字尽関係」とする)

節用集など国語辞典に類するもの(以下「国語辞典類」)は、理義字に付された訓によって検索を行った。そのため、同字で別訓のものは収集されていない。

『倭玉篇』は漢字によって検字をした。所属する部首の判別が難しい字は適宜、和訓索引・字音索引も用いた。なお、「理義字集」には「𠄎〈仏書ノ伊ノ字〉」のように、漢字の下や左に注が付けられているものがあるが、今回それらは調査項目としていない。

4.2 調査結果

144項目それぞれの調査結果については稿末の「付表」に示した。「世話字尽関係」「国語辞典類」「倭玉」いずれとも一致がみられるが、いずれとも大きく一致しない。

漢字と訓の組み合わせ149項目の内、「世話字尽関係」との一致が29項目(19.5%)で、「世話字尽関係」の中では『邇言』との一致が15項目で最も多い。「国語辞典類」との一致は46項目(30.9%)で、『合類』『大全』との一致が多く、『合類』は31項目が一致、『大全』は30項目が一致した。『倭玉』との一致は30項目(20.1%)である。調査資料全体で見ると、60項目(40.3%)が一致したが、半数以上の項目で一致しないという結果となった。

「世話字尽関係」では『邇言』との一致が多く見られたが『邇言』には、

- (9) 一 ^{ナブルネタム} 𠄎 ^{コヘ} 𠄎 ^{コヘ} 𠄎 ^{セイ} 𠄎 は音ダウなりこれらは誠に字制によりてみるにさ

も訓すへしかくのこときの字おほしここにつらぬ

^{シヤウ} 𠄎	^{フウ} 𠄎	^{エン} 𠄎
𠄎	𠄎	𠄎
𠄎	𠄎	𠄎
𠄎	𠄎	𠄎

〈以下略〉

(『邇言』第4冊13丁オ)

のように、品字様15字・重疊類1字・並肩類7字を並べる部分がある。『邇言』と

の一致が多いのはこの部分によるところが大きい。

「世話字尽関係」「国語辞典類」「倭玉」の3種のうち、2種ないし3種に共通して現れるものも多いが、「世話字尽関係」にしか見られないもの、「国語辞典類」にしか見られないもの、『倭玉』にしか見られないものがそれぞれ存在する。それをまとめたのが表3である。「国語辞典類」のみと一致する項目が最も多いが、「世話字尽関係」のものにしか現れない「𠂔𠂔」「𠂔𠂔²²⁾」のようなものもあれば、『倭玉』にしか現れないものも収められている。このことから、「理義字集」はいくつかの資料から類聚された集合であることが認められよう。

表3 「世話字尽関係」「国語辞典類」「倭玉篇」の1種のみと一致（類似）する項目

	番号	項目（訓）	一致する資料
「世話字尽関係」のみと一致する項目	3	焱（ひばな）	懷子・邇言・小野篁
	14	晶（うるわしきめ）	邇言
	56	𠂔𠂔（おがむ）	邇言
	123	𠂔𠂔（ゑへん）	反故（増大・世話は「エヘン〜」と繰り返す）
（類似する項目）	138	𠂔𠂔（はしだて）	反故「アマノハシダテ」
	139	𠂔𠂔（きのほた）	増大・常陸・世話「ホタ」
「国語辞典類」のみと一致する項目	15	𠂔𠂔（さ、やく）	合類・大全
	50	𠂔𠂔（さとる）	合類
	51	𠂔𠂔（いかる）	大全
	62	𠂔𠂔（しら〜し）	易林・大全
	76	𠂔𠂔（よそじ）	大全
	102	炎（ほのふ）	大全
	119-2	井（𠂔タン）	合類
	120	𠂔𠂔（よわし）	合類
	133	𠂔𠂔（かなへ）	増補下学・合類・大全（異体「𠂔𠂔（カナヘ）」は易林・倭玉にも存する）
（類似する項目）	127	𠂔𠂔（くわんぬき）	合類「クワンノキ」
『倭玉篇』のみと一致する項目	45	𠂔𠂔（かき）	—
	49	𠂔𠂔（くさむら）	—
	74	𠂔𠂔（となり）	—
	98	𠂔𠂔（こおり）	—
	107	𠂔𠂔（わくる）	—
	112	𠂔𠂔（つぎ）	（大全に「𠂔𠂔（つぐ）」有り）
（類似する項目）	129	𠂔𠂔（ひらかす）	倭玉「カドヒラカズ」

今回、調査が及ばなかったが、「理義字集」に付された注や訓に字書類の義注を訓読した「𠂔𠂔（𠂔書ノ伊ノ字）」のようなものがあり、『増続大広益会玉篇大全』（元

禄4年(1691)²³⁾の「、〈仏書ノ伊ノ字〉」と同一のようである。また2.2節でも少し触れたが、『海篇心鏡』など海篇類の一部で、同形反復による漢字を集める部分がある。今後は字書類との対照も行う必要があろう。ただし、「理義字集」には「𪛗」「𪛗²⁴⁾」「𪛗」のような国字とされるものも収められていることから、字書類以外の世話字尽や節用集と類似することがいえる。

5. まとめ

『安見』の「理義字集」の中でも特に品字様の部分は、①最初に配置されている、②文字数が多い、③配列が丁寧になされている、という点で重要な部分を占めていると考えられる。「理義字集」は品字様を重点的に収集し、そこに派生的部分を付け足して構成された集合と考えることができよう。

「理義字集」は世話字尽やそれを取る『邇言』との類似も見られるが、節用集などの辞典類・慶長15年版『倭玉篇』とのみ一致する項目も見られた。いずれとも大きく一致しないという結果であったが、それが「理義字集」の特徴と思われる。極めて日本的な「はしだて」という読みを付す「𪛗」がある一方で、「、〈仏書の伊ノ字〉」という項目もあり、世話字尽との関係は認められつつも、他の字書類などからも類聚された集合と考えられる。

5.1 今後の課題

同形反復による漢字を集めるという点では「海篇類」の一部と類似しており、付された注や訓にも字書類の義注を訓読したような「、〈仏書ノ伊ノ字〉」というものもある。今回、字書類の調査は及ばなかったが、『増続大広益会玉篇大全』など字書類との対照も行う必要があり、今後の課題としたい。また、「理義字集」以外の部分についても調査を進め、『安見』全体の性質も明らかにできれば、おのずと「理義字集」の性質も究明されるものと考えられる。

「理義」の意味も未だ判然としない。『邇言』の世話字には「^グ𪛗^ド𪛗^ヘ」のように音構成と漢字に何らかの対応があるものが多いことが知られている(古屋1977)。一方で「理義字集」は同形反復による会意的なものや「凹凸」のような象形的なものが多い²⁵⁾。世話字と関係があることを考えると、世話字との対立として「道理ある字義」という意味で用いられている可能性もある²⁶⁾が、そういった意味で「理

義」を用いる例を他に見つけることができない。

付記

本稿は、令和元年度第1回関西大学国文学会研究発表会で発表した内容を元に執筆したものである。なお、示した URL はいずれも 2022 年 12 月 28 日に確認をした。

注

- 1) 「項目」としたのは、基本的には 1 行 6 字だが、後部に「ノへ・魁魁」など 2 字が詰めて入れられている場合があるからである。2 字であっても、他の 1 字と対応する幅になっており、どの行も 6 項目と数えることができるため「項目」とした。
- 2) Wikipedia 日本語版「理義字」2018 年 10 月 28 日（日）07:49 版（編集履歴の URL は繁雑になるため省略している）。下線部は筆者による。以下同様。
- 3) 麻見和史（2018）『緋色のシグナル 警視庁文書捜査官エピソード・ゼロ』（角川文庫）、角川書店（Amazon Kindle 版電子書籍）による。この小説は、テレビ朝日「日曜プライム『未解決の女 警視庁文書捜査官～緋色のシグナル～』」としてドラマ化されており、劇中で小説と同様に「理義字」の説明がある（テレビ朝日（2019）「日曜プライム『未解決の女 警視庁文書捜査官～緋色のシグナル～』」2019 年 4 月 28 日午後 9 時～放送）。内容は配信サービスにて確認した。
- 4) 2015 年 12 月 14 日放送、テレビ朝日「Q さま」（Wikipedia「理義字」2015 年 12 月 19 日（土）14:51 版の脚注による）／筆者が確認したものでは、2019 年 5 月 20 日放送、NHK E テレ「天才てれびくん YOU」内の「今週もいいカンジ（漢字）」コーナー（ウェブ上に動画が公開されていたが、現在リンク切れ）で、「理義字 同じ字を 2 つ以上組み合わせでできた漢字」として「理義字」を説明し、『童子字尽安見』の画像を紹介していた。
- 5) Wikipedia 日本語版「理義字」2019 年 5 月 1 日（水）23:21 版
- 6) この説明は Wikipedia 日本語版「理義字」2015 年 12 月 19 日（土）14:51 版で追加され、2022 年 10 月 2 日（日）03:32 版で削除される。
- 7) Wikipedia 日本語版「理義字」2022 年 12 月 1 日（木）14:51 版現在
- 8) 大西久美子（2021）「作品月評」佐佐木頼綱編『短歌往来』2021 年 9 月号、ながらみ書房、p.132 による。同年 7 月号に「品字様」「理義字」を題材とした短歌があり、その評である。

- 9) Wikipedia の記述が不正確だということは、パンレイシ (2013)「理義字のはなし」(ウェブログスティック雑記)〈<http://blog.livedoor.jp/itomata/archives/3733756.html>〉でも指摘されている。
- 10) 現在は「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」で閲覧可能。〈<https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/item/ep20001397>〉
- 11) Wikipedia 日本語版「Wikipedia: 削除依頼 / 同じ漢字を三つ集めて構成されている漢字」〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E5%89%8A%E9%99%A4%E4%BE%9D%E9%A0%BC/%E5%90%8C%E3%81%98%E6%BC%A2%E5%AD%97%E3%82%92%E4%B8%89%E3%81%A4%E9%9B%86%E3%82%81%E3%81%A6%E6%A7%8B%E6%88%90%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E6%BC%A2%E5%AD%97>〉参照。
- 12) Wikipedia 日本語版「理義字」の「ノート」「変更履歴」参照。
- 13) 「理義字集」について言及したものとして、山田 (1955)、同 (1958: 24, 46, 72) があるが、いずれも『童子字尽安見』を踏まえての記述である。
- 14) 国立公文書館デジタルアーカイブ (内閣文庫)『翰林重攷字義韻律大板海篇心鏡』(『海篇心鏡』)(万暦 24 年 (1596) 刊)〈<https://www.digital.archives.go.jp/item/4457274>〉、『翰林重攷字義韻律大板海篇』(『海篇明鏡』)(刊行年不明)〈<https://www.digital.archives.go.jp/item/4051795>〉、による。「海篇類」については大岩本 (1999, 2004) などの研究があり、略称はこれによる。
- 15) 注 14 の『海篇心鏡』『海篇明鏡』では他に、「𠂔」「品」などを「三同類」、「𠂔」などを「四色類」としている。
- 16) 関場 (1990) では、『童子字尽安見』と比べて『早引文字通』は「凸」「井」において左訓「トツ」「タン」が無いという違いを挙げているが、「𠂔𠂔𠂔𠂔多」での仮名遣いの訂正、「𠂔」の下部「飯器」の削除という違いもみられる。『門引節用万宝蔵』は関場氏による蔵本で確認できていない。
- 17) 「午」を並べた形状である。
- 18) 萩原 (1987) に文字と訓についての指摘がある。
- 19) 関場 (1990) の分類では、『節用集大系』・早稲田大学蔵本の『童子字尽安見』は A3 と分類されている。『往来物大系』のものは A1 本の特徴を持っているが、11 丁オモテに「暈」の補入がなく、関場氏の分類に当てはまらないものである。
- 20) 一致は 124「𠂔𠂔」のみで、123「𠂔𠂔 (えへんへ)」、139「𠂔 (ほだ)」が類似。
- 21) これらの索引は字尽くしの部分のみの索引であるが、漢字の翻字もしてあるも

のである。ただし、「姦出（ヨコトデル）」（『反故』）のような、他の漢字と熟字となり、単字の読みも一致しないものは取っていない。

- 22) 笹原（2021）が詳しく、一部の節用集の頭書にも含まれることが指摘されている（pp.306-307）。
- 23) 元禄5年（1692）の刊記がある、早稲田大学図書館古典籍総合データベース「増続大広益会玉篇大全・首巻、巻第1-10/毛利貞斎編」〈https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko31/bunko31_e0853/index.html〉を確認した。
- 24) 蜂谷（2001）、西井（2018）が詳しい。
- 25) 笹原（2021：308）でも指摘されている。
- 26) バンレイシ（2013）「理義字集の〇」（ウェブログスティック雑記）〈<http://blog.livedoor.jp/itomata/archives/3751613.html>〉に「理義字」とは「理にかなった意味を持つ字」を意味していると自分は思うのだ」と指摘がある。

参考文献・ウェブサイト

- 大岩本幸次（1999）「明代「海篇類」字書群に関する二、三の問題 一附：現存海篇類目録」『東北大学中国語学文学論集』4、東北大学文学部中国文学研究室
- （2004）「明代海篇類字書知見録」『東北大学中国語学文学論集』9、東北大学文学部中国文学研究室
- 加藤定彦（2011）『『誹諧絵文匣』注解抄 一江戸座画賛句の謎を解く一』勉性出版
- 木村晟（1982）「元禄十二年板『延命字学集』本文と索引」『駒沢国文』19、駒沢大学文学部国文学研究室
- 小泉吉永（2001）『往来物解題辞典 解題編』大空社
- 「往来物倶楽部」〈http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/indexOurai.htm〉
- 笹原宏之（2021）「京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景 一「邇」「𨔵」を中心に」加藤重広・岡崎裕剛『日本語文字論の挑戦 一表記・文字・文献を考えるための17章』勉誠社
- 佐藤喜代治編（1996）『漢字百科大事典』明治書院
- 関場武（1990）「『門引節万宝蔵』『早引文字通』『木の葉籠』：『四民童子字尽安見』とその改題・改編本」『芸文研究』57、慶応義塾大学芸文学会
- 西井辰夫（2018）『「しんにょう」がついている国字 不思議な字「𨔵」不死身な字「込」』幻冬舎
- 萩原義雄（1987）「『小野篁歌字尽』の研究（1）」『北海道駒澤大学研究紀要』22、

駒沢大学北海道教養部

—— (2017) 『『童子字尽』の研究 —本文篇及び索引編—』『駒沢日本文化』

10、駒沢大学総合教育研究部日本文化部門

蜂谷清人 (2001) 「国字「亡」の成立と訓の変遷 —「まるぶ」「ころぶ」そして「すべる」へ—」国語文字史研究会・前田富祺編『国語文字史の研究』6、和泉書院

古屋彰 (1977) 「世話字尽と節用集 —一つの改論の例をとおして—」『金沢大学法文学部論集 文学篇』25、金沢大学法文学部

山田忠雄 (1955) 「漢数字の書法 —文字論のためのおぼえがき—」『佐佐木英夫教授古稀記念祝賀論文集』（日本大学文学部研究年報 第6輯）日本大学文学部

—— (1958) 『当用漢字の新字体 —制定の基盤をたづねる—』新生社

—— (1973) 「評判記に まなんだ もの」『歌舞伎評判記集成』3（月報）、岩波書店

Wikipedia 日本語版「理義字」〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%90%86%E7%B%E%A9%E5%AD%97>〉

参考資料

〈理義字集関係〉相川仁童 (1994) 『節用集大系』第25巻、大空社（『安見』A3本）／石川松太郎 (1993) 『往来物大系』第15巻、大空社（『安見』A1本に類似するが、11丁表に「暈」の補入がない）／早稲田大学図書館古典籍総合データベース「四民童子字尽安見／松井兎睡〔編〕」〈http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/ho02/ho02_00916/index.html〉（A3本）／東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ「年中往来用文章」〈<https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/item/ep20001397>〉／「往来物分類集成Ⅰ」マイクロフィルム版、リール20『頭書絵入 年中往来用文章』、雄松堂フィルム出版／「往来物分類集成Ⅱ 女子用往来編」マイクロフィルム版、リール25『年中往来』、雄松堂フィルム出版／相川仁童 (1995) 『節用集大系』第71巻、大空社（『早引文字通』）／京都大学文学部国語学国文学研究室 (1973) 『天治本新撰字鏡』（増訂版）臨川書店／〈世話字尽関係〉石川松太郎 (1993) 『往来物大系』第16巻、大空社（寛文13年版『小野篁歌字尽』）／近世文学書誌研究会 (1973) 『懷子（三）』（近世文学資料類従、古俳諧編11）勉誠社／近世文学書誌研究会 (1975) 『邇言便蒙抄』（近世文学資料類従、参考文献編3）勉誠社／近世文学書誌研究会 (1976) 『書札調法記』（近世文学資料類従、参考文献編5）勉誠社／近世文学書誌研究会 (1976) 『世話用文章』（近世文学資料類従、参考文献編9）勉誠社／近世文学書誌

研究会（1976）『続無名抄 常陸帶 反故集 増補大和言葉』（近世文学資料類従、古俳諧編 47）勉誠社／〈国語辞典類・倭玉篇〉近世文学史研究の会（1967,68,71）『増補下学集』（上・下・索引）文化書房博文社／中田祝夫（1975）『恵空編節用集大全 研究並びに索引』勉誠社／中田祝夫（1979）『古本節用集六種研究並びに総合索引』勉誠社／中田祝夫（1979）『合類節用集研究並びに索引』勉誠社／中田祝夫（1981）『倭玉篇 慶長十五年版研究並びに索引』（改訂新版）勉誠社

付表 「理義字」と世話字尽・諸辞書との比較

理義字			世話字尽関係							小 野 篁	国語辞典類				漢和
			懐 子	増 大	遡 言	常 陸	世 話	反 故	延 命	童 子	易 林	増 補 下 学	合 類	大 全	
番号	項目	訓													
1	晶	あきらか			●					字					●
2	晶 ^{注1}	さゆる			●					字				●	
3	蠶	まつくら													
4	蠱	おゝかぜ			字										
5	森	もり			●						●		●	●	●
6	焱	ひばな	●		●				字	●					字
7	垚	うね			字									●	●
8	森	ふかし			●					●					●
9	蠱	みなもと													
10	晶	あきち													字
11	磊	こいし											●		●
12	焱	うたがふ			●		●						●		字
13	蠱	こへたり													
14	晶	うるわしきめ			●										
15	磊	さゝやく											●	●	字
16	品	つたなし						字		字					字
17	磊	たばかる													
18	磊	はやこと			字			字	字	字					
19	焱	おゝあくび													字
20	磊	あなとりゆく													
21	焱	つよし													
22	焱	みなしご												●	●
23	焱	かしまし			●					●			▲カタマシ	●	▲ガザマシ
24	焱	たばかる			●					●				●	
25	蠱	みづたゝむ													字
26	焱	おとろく													字
27	蠱	はしる			●					字					●
28	焱	けしかける													
29-1	蕚	㊦ひつじのあぶら								字					字
29-2	蕚	㊦くさきひつじ													字
30	蠱	ふとし								字					字
31	蠱	こゆる													
32	焱	むらとり	●		字					字	●	●			字
33	蠱	ほそきけ	字					字		字					▲ホソギ
34-1	蠱	㊦あたらしきうを													
34-2	蠱	㊦めゝごこ				●	●	●		●			●		
35	蠱	ちからをそへる													字
36	蠱	おゝむし													字
37	蠱	いよやか						●				●	●	●	▲ナリ
38	蠱	いわあと													字
39	蕚	くさのさゝなみ													
40	晶	あらわるゝ			字		字		字	字					
41	焱	さききる													字
42	焱	くわ													字
43	焱	たがふ													

44	𠂔	さとる													
45	𡇗	かき													●
46	𧇗	こだる、(?)													
47	𧇗	とゞろく				字		●	●	●	●	●	●	●	●
48	𠂔	(仏書ノ伊ノ字)													
49	𡇗	くさむら													●
50	𧇗	さとる										●			
51	𧇗	いかる											●		
52	𧇗	あらそふ		字									●		●
53	𧇗	ふたご		●				●			●	●	●	●	●
54	𧇗	ならびゆく													字
55	𧇗	わするる						字							
56	𧇗	おがむ		●				字	拜	◆拜		◆拜			
57	𧇗	おもかげ													
58	𧇗	あらそふ													字
59	𧇗	いたむ													
60	𧇗	あまねくみる													字
61	𧇗	したがふ										●			●
62	𧇗	しらへし								●				●	
63	茲	まつくろし						茲							茲
64	炊	ひさかんなり													
65	林	はやし		●						●		●林薄	●	●	
66	𧇗	いしのおと													
67	𧇗	みだる、かぜ													
68	朋	とも			●					●		●	●		
69	艸	くさ										●			●
70	𧇗	ほそほそし													
71	𧇗	うとし													字
72	絲	よりいと													字
73	𧇗	かくる、													字
74	𧇗	となり													●
75	𧇗	ふたつ													
76	𧇗	よそじ											●		字
77	𧇗	はたち										●			●
78	𧇗	かう													
79	𧇗	けづる													
80	竝	ならぶ		●						◆並	◆並	▲ナラベテ	●	●	
81	競	かたち													
82	𧇗	うこく													
83	𧇗	たすく													
84	𧇗	つよゆみ		字											字
85	𧇗	たちとる													
86	𧇗	つみ													字
87	𧇗	あしをまとふ													
88	𧇗	たれみ、													字
89	𧇗	ねすみの名													
90	𧇗	たつとぶ													字
91	𧇗	とらいかる													字
92	𧇗	かみあふ													

93	件	ともし																
94	井	ならぶ										▲ナラビニ	●	●				
95	鍾	ならぶとり															字	
96	孖	うを																
97	珏	あわす															字	
98	欠	こおり															●	
99	𪛗	おもてひろし																
100	昌	さかんなり										▲サカン	●	●				
101-1	胃	㊦はふ										●					◆冒	
101-2		㊦おほふ										●					◆冒	
102	炎	ほのふ			字									●			字	
103	圭	けい															字	
104	出	いづる			●								●				●	
105	多	おゝし								●			●	●			●	
106	三	よつ															字	
107	𠂇	わくる															●	
108	𠂇	ながれかは															字	
109	𠂇	たてがみ															字	
110-1	凹	㊦なかくぼ			●					●	●		●	●			●	
110-2		㊦アフ											●				●	
111-1	凸	㊦なかだか			●								●	●			●	
111-2		㊦テフ																
112	亞	つぎ												▲つぐ			●	
113	𠂇	ひんつら						𠂇𠂇𠂇										
114	𠂇	かくるゝ															▲カス	
115	𠂇	きよ																
116	𠂇	きのまた																
117	𠂇	のうし															字	
118	𠂇	まとわす																
119-1	井	㊦どんぶり			●	●		●					●		◆耳			
119-2		㊦タン											●					
120	𠂇	よわし											●				冉	
121	𠂇	つりばり															字	
122	ノノ	ひよつひよと			●	●							●	◆ノ乙			字	
123	𠂇𠂇	ゑへん		▲		▲	●											
124	イ子	たたずむ			●					●	●		●	●			字	
125	𠂇	すべる			? ¹²²				字									
126	𠂇	おしたつる							●			●	●	●				
127	𠂇	くわんぬき										▲						
128	𠂇	つかゆる																
129	𠂇	ひらかす															▲カド	
130	𠂇	しぶき																
131	𠂇	あらしほ															字	
132	𠂇	かたまりしほ																
133	𠂇	かなへ										◆鼎	●	●	●		◆鼎	
134	𠂇	ほとらい		●		●	◆大小	◆大小	◆大小				◆大小					
135	尖	とがる				●			字		●	●	●	●			字	
136	𠂇	たづぬる															字	

137	寛	もとむる											◆	寛		寛
138	願	はしだて					▲ アマノ									
139	ホ	きのほた	▲ ホタ		▲ ホタ	▲ ほた										
140	孕	はらむ							●		●		●	●	●	●
141	魁魁	はしたなき		●	●		●		●			●	●	●	●	●
142	諷	そしる												●	●	●
143	羅	せりこむ					字									
144	羅	せりだす														字
一致数 (●の数)			2	1	15	4	7	8	0	6	7	11	10	31	30	30

※●は字・訓ともに一致するもの（訓については、仮名・仮名遣い・濁点の有無・終止連体形の差異は同一と考え、一致に含めている。また、「ひよつひよと」と「ひよつひよ」も一致とした。異体字については、竝・並のような意図された字体と異なると思われる場合、不一致とした。品字様の下部の省略や、「魁魁」の「鬼」が異体の場合などは一致とした）。▲は字が一致し、訓が近いもの。適宜その訓を示した。「-」は「理義字集」の訓がそこに入ることを示す。◆は字が近形で訓が一致するもの。その字体に近い活字を示した。「字」は、「理義字集」の字がその資料内にあるが、訓が一致しないもの。また、「茲」など漢字のみを入れるものは、「理義字集」と近形の字体「茲」はあるが、訓が一致しないものである。また、「理義字集」には字の下部や左に注が付されたものが一部あるが、ここでは割愛した。なお、「茲出（ヨコトデル）」（『反故』）のような、他の漢字と熟字となり、単字の読みも一致しないものは取っていない。

注1 乾善彦・森田亜也子（2002）「国字「崩（さやけし）」の周辺」国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究』21、和泉書院に記述がある。

注2 26丁ウラに「汙（スベル）」が見えるが、墨書による書き込みにも見え、判然としない。近世文学書誌研究会（1976）『続無名抄 常陸常 反故集 増補大和言葉』（古俳諧編 47）の「解題」「校勘記」では他の墨書の指摘はあるが、「汙」についての指摘はない。

（やまぐち しょうへい／本学大学院生）